

理工学府におけるグローバル人材の 育成とダイバーシティの推進

副研究院長（教育担当） 獨古 薫

2023年度から After コロナが本格化し、理工学府における教育も時代に即したものとすべく、様々な取り組みを進めています。2024年3月25日にはパシフィコ横浜国立大ホールにて、卒業式・大学院修了式が開催されましたが、理工学府では2023年度に博士（理学）6名、博士（工学）35名、修士（理学）74名、修士（工学）280名の学位授与（6、9、12月修了者を含む）を行い、修了生を送り出しました。2024年度の理工学府の入学者の状況は、博士課程前期・博士課程後期ともに入学定員を充足しており、定員の105%以内で管理できています。

巻頭言で研究院長が述べているとおり、博士課程後期学生への経済的支援拡充の施策が2023年度末に急速に進展しましたが、本学でも優秀な博士人材を育成すべく、在学中の経済的支援に加え、修了後の多様なキャリアパスを促すためのプログラムの整備を進めています。

優秀な博士人材を多く輩出するためには、博士課程後期への進学希望者を増加させる必要があります。従来から実施している理工学部生を対象にしたROUTEプロジェクト（Research Opportunities for Undergraduates）は、学部生（1～3年生）が研究室において最先端の研究に参加する機会を与え、研究の面白さを体験させることで、将来、博士課程に進学してさらに研究を継続したいと考える学生が増加する効果が期待されます。また、学部生および博士課程前期（修士課程）の学生のハイキャリアに向けた意識改革を促すため、『博士号でキャリアアップしよう』と題したパンフレットを配布し、博士号を取得したOB・OGの研究機関や産業界における活躍の状況や博士課程後期在学期間中の経済的支援について紹介することで、「博士を出ても就職がない」という誤ったイメージの払拭を図り、学生に博士課程後期進学をポジティブに捉えてもらえるような活動も行っています。

2023年度は学長戦略経費を活用して海外大学と連携した大学院生教育の国際化を再開・本格化させました。海洋空間システムデザインユニットでは上海交通大学（中国）およびサンパウロ大学（ブラジル）との交流を行い、理工学府生の派遣や受け入れを行いました。電子情報システムユニットでは、清華大学（中国）に学生を派遣し、教育研究交流プログラムを実施しました。これらの海外大学との連携をとおして、理工学府生に国際感覚を身に付けさせるとともに、優秀な留学生の獲得につなげることで、グローバル人材の育成を推進しています。

今後の理工学府の持続的な発展と国際競争力のある教育を実現するためには、ダイバーシティの推進が不可欠です。2023年度はその一環として、博士女子学生の支援や進学者の増加を目指し、女性大学院生のキャリアパスへの不安解消を目的とした先輩とのインタビューや研究機関訪問などのイベントを開催しました。今後も継続して同様の取り組みを行い、多様な人材の育成を推進します。



2023-2024
Highlights

教育のハイライト